

3月28日

平和をもたらす王 キリスト
マルコ福音書11章1～11節

11:1 さて、彼らがエルサレムの近くに来て、オリーブ山のふもとのベテパゲとベタニヤに近づいたとき、イエスはふたりの弟子を使いに出して、

11:2 言われた。「向こうの村へ行きなさい。村に入るとすぐ、まだだれも乗ったことのない、ろばの子が、つないであるのに気がつくでしょう。それをほどいて、引いて来なさい。

11:3 もし、『なぜそんなことをするのか』と言う人があったら、『主がお入用なのです。すぐに、またここに送り返されます』と言いなさい。」

11:4 そこで、出かけて見ると、表通りにある家の戸口に、ろばの子が一匹つないであったので、それをほどいた。

11:5 すると、そこに立っていた何人かが言った。「ろばの子をほどいたりして、どうするのですか。」

11:6 弟子たちが、イエスの言われたとおりを話すと、彼らは許してくれた。

11:7 そこで、ろばの子をイエスのところへ引いて行って、自分たちの上着をその上に掛けた。イエスはそれに乗られた。

11:8 すると、多くの人々が、自分たちの上着を道に敷き、またほかの人々は、木の葉を枝ごと野原から切って来て、道に敷いた。

11:9 そして、前を行く者も、あとに従う者も、叫んでいた。「ホサナ。祝福あれ。主の御名によって来られる方に。

11:10 祝福あれ。いま来た、われらの父ダビデの国に。ホサナ。いと高き所に。」

11:11 こうして、イエスはエルサレムに着き、宮に入られた。そして、すべてを見て回った後、時間ももうおそかったので、十二弟子といっしょにベタニヤに出て行かれた。

今日はイエス様がロバに乗ってエルサレムに入
場された棕櫚の日曜日です。

今週の木曜日の夜には最後の晩餐の時を持
たれ

その深夜にゲッセマネの園でお祈りをされます。

日が金曜日に代わる深夜に
ユダによって引率された祭司長、エルサレム
の神殿警備隊によってイエス様はとらえられ
ています。

大祭司カヤパの官邸に留置され、
ポンテオピラトの下で十字架刑を
宣告され十字架にかけられます。

夕方息を引き取られ、
アリマタヤのヨセフ、ニコデモの手によって埋
葬されています。

イエス様は日曜日の早朝、
墓を打ち破って

死から生に復活され、マグダラのマリヤたち女、
ペテロたちに現れています。

今週は主の十字架に向かって歩まれる週、
主イエス様の歩みを覚える週としましょう。

今日はマルコ11章から
ロバに乗ってエルサレムに入場される
イエス様を学んで行きます。

イエス様のエルサレム入場

①ロバに乗って入場された。

歩いて入場されたのではない。

馬に乗って入られたのでもない。

ロバに乗って入場。

ゼカリヤ9章9節の預言

9:9 シオンの娘よ。大いに喜べ。エルサレムの娘よ。喜び叫べ。見よ。あなたの王があなたのところに来られる。この方は正しい方で、救いを賜り、柔和で、ろばに乗られる。それも、雌ろばの子の子ろばに。

馬ではなく、ロバに乗って入場される。

柔らかな王

救いを賜る王

王様としてエルサレムに入場されました。

11:9 そして、前を行く者も、あとに従う者も、叫んでいた。「ホサナ。祝福あれ。主の御名によって来られる方に。

11:10 祝福あれ。いま来た、われらの父ダビデの国に。ホサナ。いと高き所に。」

②群衆、エルサレムの人々は
ホザナと言ってイエス様を歓迎しました。
エルサレムの宮にお入りください。
私たちの王となって御支配してください。
歓迎します。
ホザナ

エルサレムは礼拝するところ、
エルサレムの宮へお入りください
王様、お入り下さい、
エルサレムの真ん中にお入りください。
私たちの心の中にお入りください。
イエス様を王としてお迎えします。

本当の礼拝

イエス様を心の王座にお迎えすること。

エルサレムの真ん中に王として
歓迎する、お迎えすること。

心の中に世の欲望や貪欲
よの思い煩い、憎しみ、悪意
よこしまな思いがあれば、

それらを捨てて心の王座にイエス様を
お迎えすることが礼拝であります。

ローマ12章1節

12:1 そういうわけですから、兄弟たち。私は、神のあわれみのゆえに、あなたがたにお願いします。あなたがたのからだを、神に受け入れられる、聖い、生きた供え物としてささげなさい。それこそ、あなたがたの霊的な礼拝です。

礼拝＝からだをささげる、
自己中心の思いや世の思い、思い煩いを
ささげる、捨てて、
心の中心にイエス様をお迎えする
ことが礼拝であります。

③エルサレムの反応

しかしエルサレムの指導者には
欲望がありました。

敵意がありました。

イエスをへの殺意がありました。
イエスを否定、無視する空気が
ありました。

救い主をお迎えすること、
本当の礼拝はこれらの敵意をささげる、
捨て去って、救い主を心
にお迎えすることです。
敵意ではなくても世の思い、
貪欲をささげ、捨てて
主をお迎えして礼拝することが
ここで求められている事でした。

ユダヤ人、祭司、律法学者はイエス様への
敵意、殺意を捨てずにもっていました。

ホザナと歌って歓迎した民も
メシヤはローマの圧政を打破して
繁栄をもたらしてくれる欲望に支配され
欲望を捨てていません。

本当の礼拝者にはなれませんでした。

11節で夕方イエス様がエルサレムを去られる時
には誰もそばにいませんでした。

④イエスはロバに乗る
柔らかな王様、平和の王様です。
馬に乗る支配的な戦闘的な王でなく
ロバに乗るしもべ的な王様です。
力による支配でなく
愛により治める王様です。

イエス様は愛の力で
私たちの心の中の敵意を取り除くことで
平和をもたらされる王様でした。

輸血＝血液を与えることで人を助ける。

臓器提供＝臓器を与えることで人を生かす。

自分を犠牲にして相手を生かす
愛の方法であります。

イエス様はご自身の尊い罪のない
いのちを差し出すことで、
私たちの心から敵意を取り除き、
罪の支配から
私たちを救い出してくださいました。

⑤愛の原理で私たちを
救ってくださいました。

ヨハネの手紙第一3:16

キリストは、私たちのために、ご自分のいのちを
お捨てになりました。それによって私たちに愛が
わかったのです。ですから私たちは、兄弟のため
に、いのちを捨てるべきです。

愛を知った私たちは愛の原理で生きることが可
能となりました。

愛は心の敵意を取り除くことができます。

エペソ2:14 キリストこそ私たちの平和であり、二つのものを一つにし、隔ての壁を打ちこわし、
2:15 ご自分の肉において、敵意を廃棄された方です。敵意とは、さまざまの規定から成り立っている戒めの律法なのです。このことは、二つのものをご自身において新しいひとりの人に造り上げて、平和を実現するためであり、

2:16 また、両者を一つのからだとして、十字架によって神と和解させるためなのです。敵意は十字架によって葬り去られました。

⑥キリストの愛は敵意を葬り去ることができます。

ヨハネ1:11

この方はご自分のくにに来られたのに、ご自分の民は受け入れなかった。

1:12 しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。

ホザナ、ホザナと心から主イエス様、わが心にお
入りください。わが心を御支配してくださいと叫び
ましょう。

主イエスを心にお迎えして
心の中の敵意、他者に対する敵意、
家族に対する敵機、
自分に対する敵意を
取り除いていただいて
真の平和を味わう日々を送りましょう。

祈り

主イエス様、あなた様を心にお迎えすることで、心を支配していた敵意を廃棄してくださったことを感謝します。イエス様は心の太陽です。くらい心を明るく照らし、冷たい心を温めて春の伊吹、芽生えを与えてくださることを感謝します。絶えずイエス様から温かい愛のぬくもり、赦し、癒しをいただいて、まず私たちから敵意が廃棄され、友と和合して歩めるように導いてください。主イエス様が心の王座をしめて心を治めてくださることを感謝します。